

長井市小・中学校教育環境等検討委員会（第１回）会議録【概要】

◇開催日時 令和８年８月１８日（火）午後１時３０分～午後３時４０分

◇開催場所 長井市役所 ２階 庁議室

◇日程

- １ 開 会
- ２ 委嘱状交付
- ３ あいさつ
- ４ 委員紹介
- ５ 委員長及び副委員長選出
- ６ 諮 問
- ７ 議 事 【座長：澁江学美委員長】
 - （１）長井市小・中学校教育環境等検討委員会について
 - ①事務局説明
 - ②意見・質疑応答
 - （２）施設の現状及び長井市の児童・生徒数の今後の予測について
 - ①事務局説明
 - ②意見・感想・質疑応答
 - （３）生徒向けアンケートについて
 - ①事務局説明
 - ②意見・感想・質疑応答
- ８ 講 話
講師：文部科学省大臣官房人事課課長補佐 加賀俊策 様
文化庁参事官(芸術文化担当)付クリエイター等育成係 森下優志 様
演題：「文部科学行政の最近の動向について」
- ９ 今後の進め方について意見交換
- １０ その他
- １１ 閉 会

◇出席者（敬称略）

【委員】

区 分	氏 名	役 職	第1回出欠
1号委員	竹田 洋	長井小学校 校長	○
1号委員	目黒 孝博	長井北中学校 校長	×
1号委員	戸屋 学	山形県立米沢養護学校 校長	○
2号委員	坂野 智樹	長井小学校 PTA 会長	○
2号委員	井上 睦男	致芳小学校 PTA 副会長	○
2号委員	安部 卓也	西根小学校 PTA 会長	×
2号委員	片倉 堅二	平野小学校 PTA 会長	○
2号委員	今 俊介	豊田小学校 PTA 副会長	○
2号委員	佐藤 喬司	伊佐沢小学校 PTA 会長	○
2号委員	横山 幸明	長井南中学校 PTA 会長	○
2号委員	菅野 弥則	長井北中学校 PTA 副会長	○
3号委員	竹田 信一	長井市地区長連合会 会長	○
3号委員	新野 弘明	長井市コミュニティ協議会事務局長	○
4号委員	四釜 幹久	白ゆり保育園父母の会 副会長	○
4号委員	鈴木 良昭	社会福祉法人白山優心会 理事長	○
4号委員	遠藤 真弓	豊田児童センター館長	○
5号委員	澁江 学美	山形大学大学院実践研究科教授	○
5号委員	大津 君彦	長井市社会教育委員	○
5号委員	梅津 義徳	長井市社会福祉協議会常務理事	○
6号委員	飯澤 敦司	公募委員	○
6号委員	工藤 友子	公募委員	×

【アドバイザー】

氏 名	役 職	第1回出欠
加賀 俊策	文部科学省大臣官房人事課課長補佐(併)組織総括係長	○
森下 優志	文化庁参事官(芸術文化担当)付クリエイター等育成係	○

【オブザーバー】

氏 名	役 職	第1回出欠
平田 史彦	長井市教育委員会 教育長職務代理者	○
小野 卓也	長井市教育委員会 教育委員	○
鈴木 奈美	長井市教育委員会 教育委員	×
長沼 真知子	長井市教育委員会 教育委員	×

【事務局】

氏 名	役 職	第1回出欠
土屋 正人	教育長	○
新野 幸博	教育次長	○
鈴木 幸浩	厚生参事兼福祉あんしん課長	○
三浦 美佐子	子育て推進課長	○
鈴木 満成	地域づくり推進課長	○
本木 誉司	学校教育課長	○
今野 透	学校教育課補佐兼子ども未来創造室長	○
桑嶋 徹	教育総務課長	○
小阪 寛幸	教育総務課補佐兼環境整備係長	○
長澤 春香	教育総務課教育総務係長	○
内谷 繁央	教育総務課環境整備係主任	○

◇議事内容

1 開 会

2 委嘱状交付

教育長から各委員へ委嘱状を交付

3 教育長挨拶

【土屋教育長】

皆様こんにちは。本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。

長井市は、文部科学省に職員を派遣しておりますが、市長とともに伺いし情報交換をした際に、「地方教育アドバイザー制度」を紹介していただき、本日も出席いただいております2名の方を本市にアドバイザーとして派遣していただくことになりました。全国の学校づくりの現状や課題、本市の目指す学校づくりの方向性について、全国の事例を基にご指導していただきます。お2人は昨夜長井市においていただき、本日午前中に小中学校を視察していただいております。

さて、この会議でこれから様々協議をしていただきますが、前提となることを3点ほど申し上げたいと思います。

1つ目は、後程事務局からも説明がありますが、令和5年3月に市民の皆様の意見でまとめられた「長井市将来構想検討委員会」の「提言」がございます。これは、長井市が目指す子どもたち、学校、地域との関わり等々をご提言いただいてまとめられたものであり、本提言を大事にしていきたいと思っています。

2つ目に、主に小学校については、「子どもをまんやかにした小さな拠点づくり」を核にした「長井市立地適正化計画」を進めています。これを踏まえて協議をしていきたいと考えています。

3つ目に、中学校については、生徒数の減少を踏まえて、中学校に求められる望ましい教育を整備する、そのための学校環境のあり方を検討することを踏まえた協議をしていきたいと考えています。

まちづくり、小学校のあり方、中学校のあり方、それぞれ立ち位置は少し違うわけですが、この3点を踏まえていただきながら、議論を深めていただきたいと思います。学校は、子どもと保護者と地域が心を1つに通わせながら未来を拓く、子どもを育てる共同体だと思っています。議論を経て、長井らしい、将来の小中学校の教育環境について、大きな方向性を示していただくことになります。大変な仕事となるかと思いますが、ぜひ2年間、皆様のお力添えをよろしくお願いいたします。

4 委員紹介

5 委員長及び副委員長選出

長井市小・中学校教育環境等検討委員会設置要綱第4条第2項の規定により、

委員長 澁江学美委員

副委員長 新野弘明委員

を選出。

6 諮問

土屋教育長から澁江委員長へ諮問書を交付。

7 議 事

議長に本検討委員会設置要綱第4条第3項の規定により、澁江委員長を選出。

(1) 長井市小・中学校教育環境等検討委員会について

①事務局説明

【事務局/桑嶋教育総務課長】

②意見・質疑応答

(委員) ④今後のスケジュールについて、この検討委員会と並行して、市長部局を中心とした検討も行われる、とのことでしたが、この検討委員会で出た意見をフィードバックした上で施設整備をしていただく、この委員会の意見が反映される余地があるのかどうか確認させてください。

(事務局) 施設整備の今後のあり方については、市長部局を中心に進めていくことになっておりますが、具体的にはまだ決まっておりません。本検討委員会での検討の内容については、市長部局の委員会に反映できるようにしていきます。考え方として、小学校・中学校、それぞれ様々なご意見があるかと思いますが、色々な会議で集約していきながら、地域に合った学校、子どもたちのための学校を目指し、連携しながら進めていきたいと考えています。

(2) 施設の現状及び長井市の児童・生徒数の今後の予測について

①事務局説明

【事務局/桑嶋教育総務課長】

②意見・感想・質疑応答

特になし

(3) 生徒向けアンケートについて

①事務局説明

【事務局/桑嶋教育総務課長】

②意見・感想・質疑応答

(委員) 生徒向けのアンケートであり、答えやすさという点で考えると、Q5について、2つの要素が重なっている回答があり、子どもたちの考えが正確に回答出きるのか、不安があります。質問の項目を精査していただければありがたいと思います。また、公表はどのようにされるのでしょうか。

(事務局) Q5は、複数回答いただくものになり、すべて選んでください、という設問になります。本アンケートのとりまとめ結果の皆様へのお示しの仕方については、アンケートの実施時期もこれから検討しなければならないと思いますので、実施時期に応じて、早ければ2回目、遅くとも3回目の検討委員会で報告させていただきたいと考えています。

(委員) 子どもたちは、日々学校については考えておらず、どちらかと言うと今の環境で精一杯楽しんでいる状況なのかなと思いますので、改めて自分の学校の

文化を考えるという意味では良い機会になると思います。このアンケートを今後どのように活かしていくか教えていただけるとありがたい。

(事務局) アンケートの目的ですが、現在中学校生活を送っている子どもたちが、どういった学校だと良いと思うかをまずは挙げていただきたいと思っています。挙げていただいた結果を基に、我々大人が参考にしながら、どういった新しい学校、これからの教育環境を作っていくのかを検討していきたい、という思いで、本アンケートを作らせていただきました。出てきた結果に応じて、できるところから、子どもたちにとってより良い環境を作るための施策を検討していきたいと考えています。

(委員) 学校に来られない生徒もいると思いますので、紙ベースも良いと思いますし、全ての中学生に答えていただけるような取り方を検討してほしいと思います。できるだけみんなの声を拾ってほしいです。

(事務局) アンケートの取り方については、事務局でも検討しているところです。できるだけ多様なご意見を回答いただけるように頑張っていきたいと思っています。

(委員) 長井市で大事にしている「こどもまんなか」をいうところから、このアンケートも出てきていると思いますが、大事な視点だと思いますので、子どもたちにしっかり説明をしてからアンケートを取る、この流れを作っていただけたらと思います。

8 講 話

【講師：文部科学省大臣官房人事課課長補佐 加賀俊策 様
文化庁参事官(芸術文化担当)付クリエイター等育成係 森下優志 様】
【演題：「文部科学行政の最近の動向について」】

9 今後の進め方についての意見交換

(委員) 米沢養護学校は、豊田小学校の中に「長井校」が入っており、小学校と交流させていただきながら活動を行っています。また、長井南中学校のグラウンドに、中学部として「西置賜校」を設置させていただいております。

今回、小中学校の教育環境の検討ということで、先ほど講話にもありましたが、特別支援学級の子どもたちが増加している現状にあり、色々な支援を要する生徒の教育環境や交流のあり方も今後検討の一部にしながら、将来を見据えることが必要だと思っています。

(委員) 長井小学校は、先生の数が足りず、新採の先生も担任をもたなければならない状況にあり、先生の適正な人数配置を考えるうえでも、適正な人員について教えてほしいです。

(委員) 致芳小学校では、コミセンのご協力を得て、学校運営に参加していただいています。この事例は参考となると思います。また、他市町の検討の資料もあればいいと思います。

(委員) 今後の児童生徒数の推移の資料をいただきましたが。学年ごとの児童生徒数の推移もあれば、協議に活かせるのではないかと思います。

(委員) せっかく各学校の代表の方が集まっているので各校の取組みを共有できれ

ば良いと思います。また、いただいた資料をPDFなどデータでいただけると、学校に戻ってから共有がしやすいと思いますのでお願いできればありがたいと思います。私たちは、学校の代表として来ていますが、学校全体の意見はなかなかすぐには答えられないので、資料を事前にいただけると、学校内で検討して学校代表としての意見もお話できるかと思いますので、よろしくお願いいたします。

(委員) 先ほどのアンケートに関係しますが、今の中学生の意見も大事かと思いますが、これから中学生になる小学校6年の声も聞けないかなと感じました。

(委員) 小規模になっていくことは全国的にも避けられず、その中でこういった地域教育を展開していくのが今後求められるのかなと感じました。中学生の親で集まって話になるのが、少子化になり集団スポーツが成り立たない、1校で成り立つことが難しくなってきた、ということと、自分たちが中学生だった頃と比べ基礎学力が下がっている気がする、ということです。今高校はどこも定員割れということもあるかもしれませんが、昔はもっと平均的に高かったのではないかと感じています。後は、スマホ、ゲームへの過度な依存、だいたいこの3つが話題になります。どう向き合っていくかが課題となります。地域人材との関わりや地域探究学習が子どもたちに必ず良い影響を与えているということが分かりやすく見えてくると、地域の教育の方向性もどう進んでいったらいいのか、親の立場でもわかりやすくなるのかと思います。

(委員) アンケートについて、子どもたちの意見を聞くことも大事だと思いますが、先生方にもアンケートを実施して、待遇や環境について参考に出来ればと思います。

(委員) 私は地域の代表として来ていますので、教育の現場というよりも、地域に関わる問題を含めて、そちらの観点から参加させていただければと思います。よろしくお願いします。

(委員) 各コミュニティセンターは、6地区に1か所ずつあり、各小学校と連携しながらお話をさせていただいております。特に致芳地区については、コミセンの職員がほぼ毎日学校に常駐して連携しておりますので、事例をまとめながら、機会があれば紹介させていただければと思っています。また、長井市内には高等学校が2つありますが、どうしても進学を見据えると普通高校に行ってしまう流れになっていますが、地域のニーズのある人材の育成という観点で考えたときに、工業高校が必要になっていくと思いますので、今回の検討の中に入れられるかどうかですが、地域の人材の育成のために小中学校から長井工業高校を意識しながら考えていけたら良いのかなと思いました。

(委員) まず協議していくのが、中学校について、とありましたが、統合した場合の新たな負担と人口減少下における財政面の検証をしていかないといけないと考えます。また、いじめとかあった時に1クラスでは物理的に離す逃げ道がない、ここは深く考えなければならないと思います。中学校では複数クラスになり、合唱コンクールや運動会などで競争が出てきますが、1クラスではどうなのかなと思っています。大企業の人事担当者から聞いたところ、コミュニケーション能力の高い人を求めたいとのことでした。難しい課題では

ありますが、みなさんの意見を集約いただいて、良い方向にいければと考えます。

(委員) 地域と学校の関わりがキーワードとなっているが、地域の役割、学校の役割をどう分担にしていけるのかを考えるとときに地域の人のご意見も必要なのかと考えます。

(委員) 文部科学省の方の講演をお聞きして、全国的に人口規模が縮小する中で、特色ある、クオリティーを維持していくとの議論になりがちですが、都市部の私立校は基本大規模です。大規模の特色についての資料をいただいて、長井市に住んでいる人たちは、どういうことを目指して考える必要があるのかなと考えます。社会教育委員として、地域学習との話が出てくるが、地域の人材がいらっしゃらないとクオリティーを維持できないので、そういった資料も提供いただければと思います。また、地域活動といった場合、地元をよく知るといったことになりがちですが、もっと他の事例があると発想が広がると考えます。

(委員) 私のいる幼児施設は、地域の中にある児童センターです。園児の数が年々減少していますが、その中で、子どもたちの多様性は非常に感じていて、特性を持ったお子さんが増えているように感じています。これからの小規模少人数という全体の課題を考える上ですべてのお子さんたちの学びの場で、どういった自分の個性を生かして学べていけるか考えていきたいと思っています。

(委員) 子どもの数がどんどん減少していて、今後も増えていくことは望めない、ということを前提にして色々考えていかねばならないと思っています。維持管理も大変になっており、老朽化、あるいは義務教育学校を創設する、という議論になるのかなと思って本日参加しましたが、小規模で整理していく方法もあるし、統合して、義務教育学校を設立してなどの道があると考えます。資料の説明のペースが速く感じたので、じっくり考える時間をいただける説明であるとありがたいです。

(委員) 将来的に児童生徒数は減少傾向でいくと思われまますので、統合も視野に入れながら会議に参加させていただいています。近隣の市町村も統合を進めているところもあるので、統合してみても良いところ、悪いところの情報をいただきながら参加させていただきたいと思っています。

(委員) 児童生徒数の減少はもちろん、老朽化する施設への対応も必要であり、例えば、今年度小中学校のプールが、長井小学校・西根小学校以外の学校は別な場所での対応となったり、コミュニティセンターの老朽化の度合いや、複合化した際に学童や子どもたちの放課後の過ごし方の部分であるとか、総合的に情報を出していただいて、審議に活かしていかななくてはならないと思っています。また、長井小学校のように 500 人規模の学校もあれば、伊佐沢小学校のように 30 数名しかいない学校もあるので、小学校における地域生活拠点と言ったときに、それぞれの環境整備の在り方は非常に緻密に情報を得ながら、私たちなりの考えをまとめていなければならない。責任の重さを認識したところです。

(委員長) 私は新庄で小学校 2 年間、その後中学校で 3 年間校長を務めました。コロナ禍の中で思うような教育活動ができなかったですが、中学校の校長時代

に部活の統廃合の問題がありました。顧問が部活に1人ということで、休みがとれない、安全管理ができない中で、色々言わせていただいていた。子どもが少なくなって、学級数が少なくなると、当然教員の数も落ちていきます。部活動は他の学校の力を借りないと、特に団体競技が維持できなくなっている状況でした。学級が少なくなると同時に、教員数も少なくなるので、人事異動させる、実際、3クラス減って、教員は5人減らされました。こうした中で教科をどうするかといった切実な問題に直面しました。子どもの数、教員数が減っても学校の力が落ちる、ということはあるとは思っています。学校を守る、学校の力を発揮するところで、この場で真剣に考えていかなければならないと思います。今回皆様の話を伺って、色々な視点から子どもたちを思った意見をいただいたことに感謝を申し上げたいと思います。様々ご意見をいただきましたが、すぐお返しできるもの、これから調べたり積み重ねたりしながら事務局で準備してお返しするものがあるかと思いますが、すぐリフレクションがないかと思いますが、ご協力をいただければと思います。

10 その他

次の開催予定 : 令和8年10月6日(火) 14時から市役所庁議室

11 閉会